

令和元年度 松江農林高等学校 学校評価表

松江農林高等学校

経営目標	重点目標	主管	目標	取組指標	成果指標	評価基準			達成値	評価	総合評価と反省及び次年度への課題等	総合評価	評議員評価
						A	B	C					
安心・安全の保障	① 明るい校風づくり、マナーアップ指導の充実により、よりよい学校文化の醸成(敬語・返事・言葉づかい、式典での校歌斉唱、きちんとした制服着用、情報マナー、時間管理、掃除の徹底)	教務	時間厳守と学習環境の整備を徹底させることにより、学習意欲の向上につなげる。	自分で時間を管理する意識を高め、規則正しい生活時間を身につけさせる。	全校の出席率が99%であった。	99%	95%	90%	99%	A	【出席率】概ね良好な出席率である。遅刻者に対する指導は例年よりきちんと行ったが、家庭の協力も必要。全校99.3%(1年99.4%、2年99.2%(長欠除)、3年99.2%)	B	B
		生徒	ルールやマナーを守り規範意識を高める	登校指導や自転車の鍵かけ運動を学期に1回以上行う。	登下校時のマナー違反や、交通事故の発生件数を減らし、自転車の施錠率を上げる。	増減率 横這い 増減率 横這い	B	登校指導の回数は学期に1回としたが、案内が遅れてしまった。登下校時に関する外部からの連絡(苦情と注意)は5件いただき、接触事故も4件あったので、回数と立ち位置を考慮する必要がある。自転車の無施錠状況 1年:91件、2年:62件、3年:47件(1月末現在) (146) (52) (39)	B				
			服装頭髪指導を学期に1回以上行う。	きちんとした制服の着こなしができ、再指導が必要な生徒を減らす。	減少 横這い 増加 横這い	B	スカート丈について、折り込んで短くしないように注意を与えつつ、着崩し防止の対策として、次年度の入学よりスカートに改善を加えた。一方で、冬場はスカートの下にジャージを穿く生徒がおり、注意を与えることが多かったため、次年度より女子制服にもパンツを加えることとした。頭髪については、服装指導を行ってもクラスによりばらつきがあり、改善が必要である。	B					
		3年	自他を尊重し合う豊かな人間関係を築くとともに、高校生としてふさわしいマナーや規範意識を向上させる。	校則(携帯電話や服装)を遵守することを徹底する。	生徒・保護者による学校評価において、校則が守れた、と感じる生徒・保護者の割合	90%	85%	80%	86%	B	なかなか基本的なモラルやマナーが定着出来なかった。部活動等でみせる姿と教室内でみせる姿に大きなギャップがあると感じた。部活動顧問等と連携を図りながら指導していく必要性を感じた。	B	
		2年	基本的な生活習慣の定着を図るとともに、高校生としてふさわしいマナーや規範意識を高める。	教員間で連携を図りながら規則正しい生活習慣を身につけさせる。	学年の出席率が99%以上であった。	99%	95%	90%	99%	B	1年次より欠席、遅刻等がやや増加したが、3年次へ向け改善しつつある。三者面談やSC面談、ケース会議やSS会議等を実施している。	B	
	1年	基本的な生活習慣の定着と、自他を尊重し合う良好な人間関係を構築する。	5分前行動を心掛け、規則正しい生活習慣を身につける。	出席率が99%以上となったか。清掃活動に積極的に取り組んだか。	99%	97%	95%	99.5%	A	出席率については各クラス99%を越え、学校に来にくい生徒は少ない。在籍率100%を目指す。軽微な服装違反がある。継続的な指導をする。	B		
	② 人権・同和教育の推進及び道徳教育、特別支援教育的視点の位置づけた授業や行事の展開	人権教育	生徒の実態に即した人権・同和教育、道徳教育を推進する。	各学年の担当者と連携して、生徒の実態に即した人権・同和教育に関するHR活動を展開する。	年3回以上の人権・同和教育に関するHR活動を実施し、成果と課題を教職員間で共有することができた	80%	70%	60%	90%	A	各学年会と連携して、生徒が主体的に取り組むことが出来るHR活動が実施できた。生徒の活動が深い学びにつながるような展開の工夫を今後も模索していきたい。	A	
			自他の人権を尊重し合う豊かな人間形成の支援に努める。	人権・同和教育と道徳教育の視点を踏まえた授業を各教員が各学期に1回以上実施する。	すべての教員が視点を明確にした授業を各学期に1回以上実施することができた。	80%	70%	60%	72%	B	各授業における人権・同和教育の視点が明確になるような働きかけが弱かった。生徒一人一人を大切に、学び合う集団づくりを意識した授業にさらに共通理解を図っていく必要がある。	B	
		生徒	いじめに関するアンケート調査を定期的実施し、いじめの実態把握と早期発見に努める。	いじめに関するアンケート調査結果に基づいた実態把握と対応を迅速に講じることができた。	80%	70%	60%	91%	A	いじめに関するアンケートや、アンケートQUを実施したことで、生徒の個々の思いや学級集団の様子などを把握することが出来た。これにより、教職員が連携して生徒の支援を行うことができた。県費によるアンケートQUの実施が廃止されることを受け、学校独自での実施が可能か検討する必要がある。	A		
	③ 良きクラスづくりの推進(学びあい・認めあい・支えあい・高めあう集団づくり、学校行事等での育てたい生徒の力等の明確化)	生徒	学校内外での諸活動を通じて協調性を高め、他を思いやる心を育てる	校内(体育祭、収穫祭等)、校外(集団宿泊研修等)での諸活動を通じて、クラスや学校の連帯感を高める。	諸活動の満足度	80%	70%	60%	89%	A	今年度の体育祭は、雨天続きのため体育館で行ったので、生徒の満足度は低いと思われる。雨天時の対策として、松江市総合体育館での開催を検討したが、残念ながら次年度は希望が通らなかった。スキー研修もゲレンデの雪不足により止む無く中止としたが、次年度以降の開催は検討が必要である。	B	
地域			授業や校外学習を通して、マナーの向上や互いの意見や批評を肯定的に捉える意識の向上を図る。	学習した内容をもとに、視野を地域や日本、世界へ広げ、また地元産業等の見学を通して、自らの意見をまとめる。	授業や校外学習事後アンケートにおいて、内容の充実度を振り返りながら、授業満足度を高める。	80%	20%	0%	91%	A	地域に視点を当て、校外学習等を通して地域の取り組みや産業を実際に見学し、現場のリアルな意見や思いを理解しレポート作成への取り組みができた。今後は新たな課題や取り組みを体験的に学習させたい。	A	
3年		自他を尊重し合う豊かな人間関係を築くとともに、高校生としてふさわしいマナーや規範意識を向上させる。	いじめアンケートを実施し、教員間で連携を図りながら人間関係の構築を図る支援を行なう。	いじめアンケートにおいて、良好な人間関係を築き学校生活が楽しいと感じている生徒の割合。	90%	85%	80%	82%	C	なかなか基本的なモラルやマナーが定着出来なかった。部活動等でみせる姿と教室内でみせる姿に大きなギャップがあると感じた。部活動顧問等と連携を図りながら指導していく必要性を感じた。	B		
④ 生徒支援・相談活動体制の充実	保健	生徒自らが、心と身体の健康に努め、自己管理できる能力を育成する。	生徒の健康状態を把握し、個々に応じた適切な対応や指導を行う。	毎朝の健康チェックが確実にできた。健康診断・各健診の実施、身体測定を計画通り実施できた。	80%	70%	60%	85%	A	生徒・保護者の肯定的評価は89%であった。年度反省として、毎朝の健康チェックの徹底。保健だよりのホームページ掲載、教育相談委員会のあり方について、改善を図りたい。	A		
		⑤ 健康教育に係る計画的な実践活動及び講習会の実施と健康情報の発信	健康に対する保持増進の自覚を持たせる。	健康相談事業及び歯科講話、計5回実施できた。保健だよりを紙ベースと学校ホームページに年10回発行できた。	80%	70%	60%	80%	A		A		
安心・安全の保障	⑥ 安全・安心な環境で教育が受けられる環境整備	保健	安全・安心な学習環境を目指し、環境・美化意識の向上に努める。	学校薬剤師や事務室と連携し生徒の学習環境を整える。生徒が安全な学校生活が送れるよう安全点検を行う。	水質・教室等の空気検査、照度測定等を計画通り実施できた。安全点検を年3回実施し、改善点などに対して適正に対応できた。	80%	70%	60%	95%	A	保護者意見として、第一記念館のトイレが汚いとの指摘があった。保健部としても何らかの対応をしなければならぬと考えている。校内美化について、教職員・生徒の意識をもっと向上させるような取り組みを考える必要がある。	B	
		理科	安全・安心な環境で教育が受けられる環境を整備する。	新技術の導入を取り入れた実習、研究に取り組む。	新技術を取り入れたプロジェクトに取り組んだ教員の割合	90%	80%	60%	93%	B	ドローンを使用した稲作の展開にとどまらず、内容的にまだまだ向上する必要がある。大学や地域と連携・協力をして取り組む必要がある。	B	
		理科	安全な環境で授業に取り組み、社会人としてふさわしいマナーや道徳規範を身につける。	実験・実習機器の正しい取り扱い方の指導と、実習室等の整理整頓を行う。	生徒の授業評価において、学びやすい学習環境であったと感じる生徒の割合	90%	80%	60%	94%	A	授業の取り組み・学習環境については生徒達から一定の評価を受けている。今後は、安全指導・作業服等の着こなしについて、指導を続けていきたい。	A	
		食品	実習を通してマナーや安全性の意識向上を図る。	授業や校外学習などにおける、適切なマナー(挨拶、身だしなみ)を身につけ、実習などでは時間遵守と安全性を意識した授業展開を行う。	実習における大きなけがや事故がなかったか。 ※おむね救急車で搬送されるような事象	0件 1件 2件以上	0件			A	授業内で救急車で搬送されるような大きな事故やケガはなかった。授業開始の挨拶や授業開始時間については適切に守ることができた。	B	
		事務	施設・設備の整備及び維持保全管理に努め、学習環境の向上を図る。	施設・設備の維持保全や速やかな修繕対応を行うとともに、備品等の適正配置と計画的な整備に努める。	生徒、保護者が学校の施設・設備の整備及び管理状況について、適切だと思っている割合	80%	70%	60%	93%	A	生徒、保護者の評価の平均値は93%と良い評価を得た。建物修繕など修繕経費が大きく、すぐには予算的に難しいものについては計画的に修繕を進めていく。	A	
学びの保障	⑦ 基礎・基本の確実な定着(知識・技術の確実な習得、見直しを立て、振り返りを導入した授業の徹底、読書力の向上、家庭学習の充実、アグリマスタ・FFJ検定・資格取得等学習成果の見える化の推進)	教務	学習に向かう姿勢を育てることにより、基礎学力の伸長と学習習慣を身につけさせる。	授業を大切に計画的に学習に取り組むことで基礎学力を定着させる。	生徒が計画的に試験勉強に取り組む、クラスの平均が65点以上のクラスが7クラス以上であった。	7クラス	6クラス	5クラス	7クラス	A	「学習時間調査」の記入とそれを通しての担任との面談や、進路と結びつけた指導等で更に学習に取り組むよう指導していきたい。部活動顧問の協力により、テスト前1週間の学習への切り替えをする指導を強化する。平均65点以上(1学期中7クラス、1学期末6クラス、2学期中7クラス、2学期末8クラス)	A	
		図書	生徒の学習活動を支援し、図書館運営を充実させる。	図書館オリエンテーションや朝読書、広報活動等により、読書活動の推進を図る。	65%以上の生徒が一冊以上本を借りる	65%以上	55%~64%	54%以下	62%	B	1年生、2年生ともに学年の4割の生徒が一冊も借りていない。教室に何冊か本を置くなど工夫したい。また学年が上がりHR教室から図書室までの距離が近くなると、利用が増えると考えられる。図書館便りや掲示版の活用を力を入れて来館してもらいたい。	A	
		食品	専門教育における基礎・基本を確立させ、体験的な学習の場を充実させる。	農業クラブ活動の充実を図る。学習内容の定着を図る。	県大会入賞者5人以上であった。	5人以上	4~3名	2名以下	3人	B	農業クラブ鑑定競技大会出場者9名の内、入賞者は3名であったが、内1名は最優秀賞を受賞した。次年度は指導に力を入れ5名以上を目標としたい。	B	
		福祉	実習及び体験的な学習を充実させ、基礎的な知識・技能を習得・活用する力を身につけさせる	定期的に小テストや実技テストを実施する	定期的に小テストと実技テストを実施し、振り返りを行うことができた	80%	70%	60%	94%	A	小テストと実技テストを昨年度よりも多く定期的に行ってきた。実技テストに向けて放課後練習をする生徒もおり、技術の習得に向けた意欲向上につながった。	A	

令和元年度 松江農林高等学校 学校評価表

松江農林高等学校

経営目標	重点目標	主管	目標	取組指標	成果指標	評価基準			達成値	評価	総合評価と反省及び次年度への課題等	総合評価	評議員評価 A・B・C・D	
						A	B	C						
学びの保障	⑦基礎・基本の確実な定着(知識・技術の確実な習得、見直しを立て、振り返りを導入した授業の徹底、読書力の向上、家庭学習の充実、アグリマイスター・FFJ検定・資格取得等学習成果の見える化の推進)	地域	専門教科を通して、地域の課題や資源について気づき地域の環境改善を図る。	様々な発表やまとめを通して、課題を明確化し発表し、互いの意見や完成物を高め合う活動を行う。	発表会などを通して、他者の考えや思いを理解し、前向きな考えや意見を持つことができる。	80%	15%	5%	96%	A	様々な授業の展開をグループでの学習活動を行った。地域の課題に対して、個人での意見のまとめや、グループでのまとめなどを行った。プレゼンテーションの能力を高めていきたい。	A	A	
	⑧探究的学習、言語活動の充実(課題研究、総合的な学習の時間、教科・科目でのプロジェクト学習、表現・分析・論述、説明する力・質問する力の育成)	B科	基礎・基本の確実な定着をめざす。	アグリマイスター、FFJ検定、日本農業技術検定の資格取得をめざす。	資格取得できた生徒の割合	90%	80%	60%	88%	B	日本農業技術検定の資格取得については、3級は前年並みの取得状況、2級は取得することができなかった。プロジェクト学習については、ほとんどの生徒が真面目に取り組む中、不十分な生徒も見受けられる。指導性・社会性・科学性の高まる研究を進めていくことができるようにしたい。社会性・科学性のある研究について、大学と連携して取り組めるようにしていきたい。	B		
		農産	実験・実習の充実と課題研究のとおして地域と連携した教育を実施する。	新技術の導入や地域の課題や連携を考えた課題研究を15課題実施する	新技術や地域の課題を考えた課題研究を15課題実施する	100%	90%	80%	93%	B	各科の課題研究では、14課題の内容が実施された。内容にはまだまだ向上する必要がある、大学や地域との協力を得ていく必要がある。	B		
	⑨教科ごとの到達目標の設定(CAN-DO LIST、一人複数回の授業参観、教科で育てる、力がつく試験問題の作成)	図書	人間性豊かな人材育成のため、教員の資質向上を図る。	校内研修を実施する。	職員会議後の校内研修を年8回行う。		8以上	7~5回	4回以下	7回	B	昨年までの反省を生かし、今年度は職員会議が延長した場合は研修会を延期した。そのために予定回数実施することが出来なかった。		B
	⑩実験・実習及び体験的学習の場の充実(身についた知識・技能の活用、報告書・レポート指導)	農場	実験・実習の充実と課題研究のとおして地域と連携した教育を実施する。	GAPやHACCPなど安全管理や工程管理を意識した実習の実施	整理整頓や安全に配慮した実習ができた教員の割合	90%	80%	60%	88%	B	教員の肯定的評価の割合は、目標に若干届かなかった。実習では、道具の置き方によってけががありさらに教員の意識向上が必要である。	B		
学びの保障	⑪生徒会、部活動、農業クラブ、家庭クラブなどの活動を通じた自治能力の育成、主権者教育の推進及び各委員会活動の充実	生徒	部活動の在り方を考慮しつつ、活動の充実を図る	部活動紹介や、各部のPR活動を推奨し、入部者を増やす。	部活動への加入率	80%	70%	60%	87%	A	部活動の加入状況 …1年生:運動系:89名、文化系:41名 81.3%(130/160) 2年生:運動系:75名、文化系:55名 82.8%(130/157) 3年生:運動系:93名、文化系:44名 97.2%(137/141) 一方で、途中で退部する生徒も多かった。	B		
		2年	中堅学年として学校の様々な行事に積極的に取り組み、自他を尊重し合う豊かな人間関係を築く。	部活動、生徒会活動、農業クラブ活動、家庭クラブ活動等に主体的に取り組ませる。	生徒による学校評価において、部活動やクラブ活動の取り組みが肯定的だった、と感じる生徒の割合	90%	80%	70%	90.3%	A	部活動、生徒会活動、農業クラブ活動、家庭クラブ活動等で主体的に取り組む姿が多く見受けられる。今後はさらにボランティア活動や検定試験等に取り組ませたい。	A		
	⑫特別支援教育の推進(授業のユニバーサルデザイン化に向けた連携・支援の強化、本校における通級指導実践の研究、クラス・部活動等における特別支援教育の実践)	人権教育	特別に支援が必要な生徒に対して、効果的な支援を行う。	生徒を支援するために必要な情報を教職員間で共有する場をつくり、共通理解のもとで生徒の支援を進める。	「人権同和教育推進委員会」等を開催し、本校の人権教育推進体制のもと、共通理解を図りながら生徒の支援を進めることができた。	80%	70%	60%	80%	A	「人権同和教育推進委員会」「特別支援教育委員会」等、計画通りに実施することが出来た。また、気になる生徒に関する授業担当者も適宜実施され、共通理解のもとで生徒の支援を進めることが出来た。	A		
	E科	安全な環境で授業に取り組み、社会人としてふさわしいマナーや道徳規範を身につける。	ユニバーサルデザインを意識した授業実践及び実習環境整備を行う。	生徒の授業評価において、分かりやすい授業展開であったと感じる生徒の割合	90%	80%	60%	84%	B	授業の取り組み・学習環境については生徒達から一定の評価を受けている。今後は、安全指導・作業服等の着こなしについて、指導を続けていきたい。	A			
	⑬ボランティア活動の推進(一人一回以上のボランティア体験、HR活動でのボランティア活動、ボランティア活動等による増加単位対象生徒の増加)	生徒	学校内外での諸活動を通じて協調性を高め、他を思いやる心を育てる	自主的活動(生徒会活動、ボランティア活動等)を通して、他者を大切にすることを育てる。	自主的活動への関心と活動に対する満足度	60%	50%	40%	92%(3-5) 49%(5-1)	B	生徒会活動は、生徒会長を中心に頑張って運営を行ってきた。引き継ぎを終えたので新役員の今後の活動に期待したい。 ボランティア活動は、案内の仕方に改善を加え、募集要項等の書類が整理され見易くなった。 現段階で既に3単位の増加単位を取得した生徒が2名出た。 ただし、ボランティアポイントについては内容等の見直しが必要と考え現在検討中である。	B		
進路の保障	⑭キャリア教育の推進(系統的・組織的な推進、企業等との連携強化、インターンシップの改善、高等学校基礎学力テスト等への対応)	進路	個々の適性に即した進路指導を行い、地域貢献を果たす。	卒業時までに生徒全員の進路先を決定する。	卒業式までの進路決定者の割合	90%	80%	70%	98%	A	卒業予定生141名の内、138名は進路先が決定しており、残り3名は近く受験する者や結果を待っている状況である。	A		
		E科	学習・実習・校外活動を通して、地域に貢献できる資質を身につけ、社会人基礎力を高める。	現場見学・インターンシップを体験させ、グループで協力し実践報告を行う。	生徒の授業評価において、授業に共同して取り組み、職業意識が向上したと感じる生徒の割合	90%	80%	60%	92%	A	インターンシップはもとより、現場見学においても体験型の実習を取り入れることにより、生徒の学ぶ意欲が向上した。 今後とも各方面と協力し、グループ学習・実践的な体験を取り入れた研修を企画したい。	A		
		C科	キャリア教育の推進	「産業社会と人間」を通して、進路について考えさせる。	事後アンケートにおいて、進路意識に関する生徒の自己評価(肯定的評価%)	90%	85%	80%	99%	A	生徒の自己評価(肯定的評価%)を見ると、「進路について考える力を伸ばすことができた」と判断する生徒が殆どであり、キャリア教育の学習プログラムが効果的であったと評価できる。	A		
	⑮個々の生徒の適性に即した進路開拓(全教員による企業訪問、面接・小論文の充実、情報共有)	進路	個々の適性に即した進路指導を行い、地域貢献を果たす。	就職者において、県内就職者をたくさん送り出す。	就職内定者の内、県内就職者の割合	90%	80%	70%	94%	A	就職希望者51名の内、48名が県内に就職する。地元企業の職場見学やインターンシップが大きく影響していると思われる。	A		
	⑯進路情報の発信(進路情報の外部に対する発信、生徒・保護者に対して求人情報や指定校情報発信)	地域	校外の企業や、各県機関との連携を図る。	進路希望状況を踏まえ、進路希望に合わせた地域の改善につながる人材を育てる。	文章の構成を考えた発表(プレゼンテーション)の作成を行い、地域を知る人材の育成を推進する。	70%	25%	5%	88%	A	生徒の進路を考慮した、系列選択が基本であるとする。地域で何を志す社会人としての役割を果たすかなど考えさせることが今後の課題であると思われる。	A		
⑰進路情報の発信(進路情報の外部に対する発信、生徒・保護者に対して求人情報や指定校情報発信)	進路	進路情報を発信し、生徒の進路選択に生かす。	進路ガイダンス、進路学習会など計画的に行い、学期ごとに進路指導に関する実践をHPIに掲載する。	計画通りに実践できた割合	90%	80%	70%	100%	A	進路ガイダンス、補習、企業見学、模擬試験など、すべて計画通りに実施した。各ガイダンスでは有意義であったという回答が90%以上であった。	A			
3年	保護者や地域との連携を強化するとともに学校の魅力を発信し、信頼される学校づくりを推進する。	進路情報や各種イベントで活躍する生徒の姿などを「学年だより」の発行を通して情報発信する。	生徒・保護者による学校評価において、学校からの情報が得られていた、と感じる生徒・保護者の割合	85%	80%	75%	92%	A	進路指導部と連携を取りながら的確な情報を発信できたと感じている。今後は地域に対してどのように情報を発信していくかが課題であると感じた。	A				
その他	⑰地域との連携活動の推進(学科・系列の特色を生かした連携事業の推進、収穫祭での新しい企画、松農発表会の改善・充実)	総務	学校説明会、体験入学、松農発表会を通して、本校への理解を深める。	わかりやすい資料を使って学校説明を行ない、体験入学で効果的なPR活動を行う。	体験入学に参加して、本校の学習内容についての理解が深まったとする中学生の割合	80%	70%	60%	99%	A	松農発表会については終了直後アンケートは未集計。来場者アンケートを見たところでは、肯定的評価が多かった。体験入学に参加した中学生の満足度は高い。	A		
		食品	将来、食品・地元産産業関連の職業に従事可能な者として貢献する人材を育成する。	企業見学やインターンシップを通して、地元企業に対する理解を深め、将来の進路選択に役立てる。	90%の生徒が食品に関係する企業に就職または関連性のある上級学校へ進学した。	90%以上	80%以上	80%未満	36%	C	C3食品科学系25名中、食品関連企業や専門関連の上級学校への進学者は9名であった。ただし、保育系の上級学校を入れると52%である。次年度は80%を目標とした。	B		
		福祉	地域との連携活動を推進する	地域の福祉施設と連携して、収穫祭で新しい企画を行う	地域の福祉施設と連携して、収穫祭で新しい企画を立案し、実施することができた	80%	70%	60%	93%	A	昨年度同様、社会福祉法人四ツ葉福祉会と連携し、収穫祭での共同販売を実施した。今年は、生徒が考案し作成したイラストをもとにチラシを作成し配布することができた。	A		
	⑱PTA活動の充実(PTA事業の見直し、及び工夫・充実による参加者の増加、PTAだよりの工夫・充実、保護者主体の取組)	総務	PTA活動を保護者主体の取組にするよう工夫する。	総会、PTA活動の日への保護者の参加を促し、保護者主体の運営を行う。	総会、PTA活動の日の保護者の参加割合	30%	25%	20%	25%	C	PTA活動については今までのところ、総会、PTA活動の日とも参加者増につながっていない。少々目標設定が高すぎたかもしれない。	B		
	⑲広報活動の充実(HPの積極的な更新を各担当で迅速に行うこと、学校説明会の改善・充実、学級・学年通信の充実と公開)	総務	学校説明会、体験入学、松農発表会を通して、本校への理解を深める。	わかりやすい資料を使って学校説明を行ない、体験入学で効果的なPR活動を行う。	体験入学に参加して、本校の学習内容についての理解が深まったとする中学生の割合	80%	70%	60%	99%	A		A		
生徒	部活動の在り方を考慮しつつ、活動の充実を図る	大会結果等を速やかにHPへ掲載する。	HPへのアクセス回数	増加	横ばい	減少	-	A	各部の結果報告書を、大会終了後速やかに提出していたいので、HPへのアップもスムーズに行っている。	A				